

令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立志茂田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

・第1学年

本年度の達成率は、校内が区全体とほぼ同水準となった。世界の中の日本に関する問題では目標値と同程度であり、政治分野や日本国憲法に関する思考・判断を要する問題も一定の成果を示した。昨年度の1年生で課題となっていた古代史分野（縄文～平安）については、用語理解と年代の把握で改善が見られた。

・第2学年

地理分野の正答率は区平均を上回り、特に世界の自然環境や地域に関する問題で成果が確認できた。一方で、歴史分野では平安後期～鎌倉時代の正答率が依然低く、因果関係を説明する力に課題が残った。

・第3学年

昨年度の2年時点では地理分野が区平均を下回っていたが、本年度は大幅に改善し、地理的特色や地域区分の問題で区平均を上回る成果を収めた。地域調査の手法や資料読解を伴う問題でも正答率が向上し、学習改善の取組が成果につながった。歴史分野も全体として改善傾向にあり、基礎的な知識定着が進んだ。

(2) 課題

・第1学年

縄文～室町時代の基礎知識および日本国憲法の理解に課題があり、政治分野の問題で区平均を下回った。

・第2学年

平安後期～鎌倉時代の理解不足が顕著で、知識の暗記に偏る傾向が見られる。因果関係を捉えて説明する学習を強化する必要がある。

・第3学年

歴史分野は一部弱さが残るが、全体として改善傾向にあり、地理で培った学習意欲を他分野に波及させることが課題である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	令和6年度結果は区全体と校内ではほぼ同水準であり、昨年度と同様の水準を維持した。単元別では歴史初期分野がやや低い。	令和5年度の区全体と校内の達成率においては区全体を校内が上回る結果となった。 本年度の区全体と校内の達成率はそれぞれ48.4%と48.6%。 区全体を校内が0.2%上回る結果となった。	目標値を達成できた分野、単元と達成できた分野単元に大きな開きがあった。
第2学年	地理分野は区平均を上回るが、歴史分野（平安後期～鎌倉）で正答率が低く、課題が残った。昨年度1年時点での課題は一定の改善が見られたが、思考・判断を伴う課題で差が出た。	歴史的分野の正答率が区の平均値の-0.5と多少高かったのに対し、地理的分野においては、-4.2と大きく下回った。	歴史的分野のすべての問題内容で区の目標値を下回った。一方、地理歴史分野の内容では目標値をほとんど上回った。
第3学年	地理分野は大幅に改善し、区平均を上回る成果を上げた。昨年度3年生と比較しても全体の平均正答率は上昇しており、特に資料活用型の問題で顕著な伸びが見られた。	歴史的分野・地理的分野のすべての問題内容で区の目標値を上回った。一方、歴史歴史分野の中世・近世の問題では正答率も高かった。	地理分野・歴史分野共に目標値を上回った。

(2) 分析 (観点別)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	基礎知識の習得にばらつきがあるものの、全体的には標準的な理解度を示している。今後は基礎の定着を重点的に支援したい。	思考力は基礎段階にあり、因果関係の説明や論理的表現はこれからの育成課題となっている。段階的な指導が望まれる。	学習態度に二極化が見られ、積極的な生徒と消極的な生徒で差が大きい。モチベーション向上の工夫が求められる。
第2学年	歴史分野の知識に課題が見られ、特に重要用語や年代の理解に不足があるため、復習と定着を強化すべきである。	歴史分野での因果関係説明が弱く、出来事間の繋がりを論理的に説明する訓練を重ねる必要がある。	比較的安定した学習態度を示しているものの、自己管理や課題への取り組みの質に改善余地がある。継続的な支援が必要。
第3学年	地理分野での知識定着が顕著であり、複雑な地理的要素の理解が進んでいるが、一部地域の特徴理解にはさらなる指導が必要だ。	資料を関連付けて解釈する力が向上し、多面的に事象を捉える力がついてきている。さらに表現力を磨きたい。	全体的に学習意欲が向上し、授業への積極的参加が見られる。自発的な学習姿勢をさらに促進する環境作りが重要だ。

3 授業改善のポイント (観点別)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	基礎知識にばらつきがあるが、全体としては標準的な水準にある。用語理解の定着を重視し、基礎をそろえる支援が求められる。	思考力は基礎段階にあり、因果関係の説明や論理的な表現力はこれから育成する課題である。段階的な指導が必要だ。	学習態度に二極化が見られ、積極的な生徒と消極的な生徒で差が大きい。モチベーションを高める工夫が求められる。
第2学年	歴史分野の知識に課題があり、特に重要用語や年代の理解に不足が見られる。復習の習慣化と知識定着の支援が必要である。	歴史的な事象の因果関係を説明する力が弱く、出来事間のつながりを論理的に語る練習が求められる。訓練の機会を増やしたい。	おおむね安定した学習態度を示すが、自己管理や課題への取り組みの質には改善の余地がある。学習習慣の見直しが課題だ。
第3学年	地理分野での知識定着が顕著で、複雑な地理的要素の理解が進んでいる。一方で地域ごとの特徴理解には更なる深まりが必要である。	資料を関連付けて解釈する力が向上し、多面的に事象を捉えられるようになってきている。より高度な表現力育成を進めたい。	学習意欲が全体的に向上し、授業への積極的参加が見られる。自発的な学習姿勢をさらに促す環境づくりが重要である。

